

仮想アースの検討(5)(HP 収載)
ーコンデンサーと抵抗の活用(5)ー

1. 始めに

前報(4)までのコンデンサーと抵抗の仮想アースとしての活用の検討を行ってきました。その結果、電解コンデンサーがよさそうなこと、コンデンサーの容量は大きい方がよさそうなことが分りました。今回は、ST氏の助言に基づき、さらに電解コンデンサーを追加して、その活用を行うことにしました。

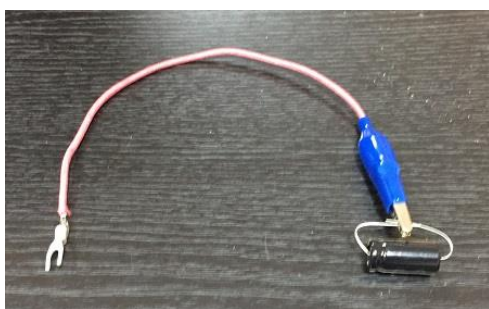
2. コンデンサーと抵抗の試聴方法

コンデンサーと抵抗の試聴を簡便に行うために接続ケーブルを準備しました。

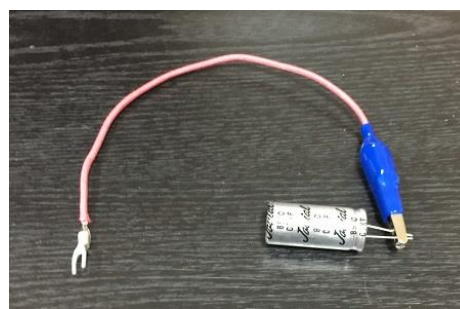


今回、追加した電解コンデンサーは、TKブランドの $1000\mu\text{F}$ と $10000\mu\text{F}$ のものです。

これらを上記写真の左のケーブルにセットして、EMT981のアースポイントに接続します。



$1000\mu\text{F}$



$10000\mu\text{F}$

試聴は、EMT981 における CD 再生とし、前報(1)で使用した CD を使用します。

Evidence EVCD015

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1 他
フランソワ=フレデリック・ギィ (ピアノ)

harmonia mundi KKC-5976

モーツァルト他 ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 K.452 他
アンサンブル・ディアーロギ

hyperion CDA67993

ウジェーヌ・イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番~6 番
アリーナ・イブラギモヴァ

3. コンデンサーと抵抗の試聴結果

電解コンデンサー $1000\mu\text{F}$ の場合、ベートーヴェンのチェロソナタは、チェロの音の滲みが減り、ピアノの打鍵の音の芯が明瞭になってきます。

モーツァルトのピアノと管楽器のための五重奏曲は、オーボエ、クラリネット、ナチュラルホルン、ファゴットの古楽器の木管合奏の音の濁りが減り、フォルテピアノの打鍵が明瞭になります。

イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、わずかに音が滑らかになったかなという程度の変化です。

電解コンデンサー $10000\mu\text{F}$ の場合、ベートーヴェンのチェロソナタは、 1000F の場合より変化の程度は大きく、さらにチェロの音の滲みが減り、さらにピアノの打鍵の音の芯が明瞭になってきて、打鍵音と余韻が分かれて聴けるようになってきます。

モーツァルトのピアノと管楽器のための五重奏曲は、 $1000\mu\text{F}$ の場合より変化の程度は大きく、古楽器の木管合奏の協和が感じられ、フォルテピアノの打鍵が一層明瞭になってきます。

イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、音が滑らかになり、余韻がはっきりしてより深みがでてくる印象です。

4. まとめ

電解コンデンサーを仮想アースとして使用する効果を認めましたが、効果の度合いは、容量が $1000\mu\text{F}$ より $10000\mu\text{F}$ の方が明瞭でした。

以上